

平成 24 年度大学院派遣研修研究報告書

派遣者番号	23J01	氏名	宮崎 三喜男
研究主題 —副主題—	高等学校集団宿泊行事を活用したキャリア教育とその効果		
所属校	都立国際高等学校	派遣先	東京学芸大学大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>本研究の目的は、勤労生産・奉仕的行事を組み合わせた集団宿泊行事は高校生にとってどのような影響を与えているのか、体験的な教育活動が生徒自身の人格形成の成長にどの程度、影響を与えているのか、キャリア教育を取入れた集団宿泊行事が、生徒の自尊感情にどの程度影響を与えているのかを考察し、勤労生産・奉仕的行事を組み合わせた集団宿泊行事をキャリア教育の観点から考察することである。研究対象校である都立蒲田高等学校は、2年間にわたり、青森県の農家に3泊4日のファームステイを実施しているなど、特色ある宿泊体験研修を実施している学校である。この宿泊体験活動を通して、生徒たちが何を感じ取り、キャリア形成についてどのような影響を与えられたのかを、実施後の作文から分析し、またさらにアンケート調査を行い、考察を行った。</p>
II 研究の方法	<p>本研究の方法としては、数量的要素を加味した言説分析を採用した。一定の事象や傾向を的確にあるいはストレートに語る文章は、大きな説得力をもち、また、そこから読み取れるものは少なくない。しかし同時に、どれだけの者がそのように感じ考えているのか、あるいはその文章で語られていることがどれだけの蓋然性をもつのかということも重要な問題である。そこで、生徒たちの作文をいくつかの骨子に分けて読み取り、それぞれの骨子についてキーワードを用いて数量化することとした。そして、高校生たちが勤労や宿泊体験を通して感じたことをその内容をとらえるとともに、その蓋然性をも把握することを試みた。さらに本稿では、アンケート調査、聞き取り調査も行い、言説分析を補完した。</p>

Ⅲ 研究の結果

研究の結論は次の4点である。

- 1 勤労生産・奉仕的行事を組み合わせた集団宿泊行事は高校生にとって非常に肯定的な評価が得られる学校行事であるが、他の勤労生産・奉仕的行事への影響はほとんどないことが明らかになった。
- 2 体験的な教育活動は、実施直後においては直接的な教育効果が高く、時間が経過するにつれて生徒自身の人格形成の成長に影響を与えていることがわかった。
- 3 集団宿泊行事は「基礎的・汎用的能力」の「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」への影響が高いことが分かった。
- 4 キャリア教育を取入れた集団宿泊行事は、生徒の自尊感情を高める効果があることが分かった。

研究を通して、以上の4点のことが明らかになったが、この点とともに見えてきたことは、学校行事ではない日常の教育活動が生徒のキャリア形成に大きく関係することである。生徒のキャリア形成の育成のためには、東京都立蒲田高等学校において実施されたような大掛かりな学校行事も有効ではあるが、やはりその基盤となる日常の教育活動が非常に重要である。学校においては、体育祭や文化祭といった学校行事のみならず、科目の授業やさらには委員会や部活動など様々なことを経験し、さらにそれ以外にも掃除や授業開始時の挨拶というような礼儀や作法を学ぶ環境がある。これらすべてのことがキャリア教育につながっていることが、アンケートや生徒の作文から読み取ることができた。

さらには教師と生徒、生徒と生徒の間で日常的に行なわれている人間関係の積み重ねが、生徒のキャリア発達に大きな影響を及ぼしている。具体的には、生徒の宿泊体験研修のネガティブな要因が日常の人間関係に起因していたり、逆に日常の学校生活と比較して宿泊体験研修をとらえているなど、複数の学校行事や日常の学校生活を一体としてとらえていることが、アンケートや生徒の作文記述から見て取ることができた。このような教科等の活動や課外活動が基盤となり、集団宿泊行事が「基礎的・汎用的能力」の「人間関係形成・社会形成能力」や「自己理解・自己管理能力」に影響をあたえているのであり、キャリア教育が全教育活動を通し、また中長期的に行なうことが有効であることの要因が見ることができる。

IV 考察

本研究から、キャリア教育として実施した集団宿泊行事が生徒の自尊感情に大きな影響を及ぼしていることが明らかとなった。また集団宿泊行事がキャリア教育の中の「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」にも大きな影響を与えていることも証明された。しかしながら、キャリア教育でうたわれているその他の「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」、また勤労生産・奉仕的行事の目的が十分に達成されていないことも明らかになった。このことは、そもそも「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」、また勤労生産・奉仕的行事の目的を達成するためには、集団宿泊的行事が適していないのか、または方法が違っているのか、が明らかになっていない。さらに研究対象校である都立蒲田高等学校は、エンカレッジスクールと呼ばれる学校であり、もともとの自己肯定感が低い生徒たちが多く在籍する学校である。ともすれば同じ内容を例えば、自己肯定感の高い生徒や、大学への進学率の高い学校の生徒などで実施した場合に、どのような結果が現れるかで、「高等学校集団宿泊行事を活用したキャリア教育とその効果」という主題をより正確に把握できると考える。